

平成17年3月期 第1四半期業績の概況(非連結)

平成16年8月6日

上場会社名 株式会社ソフトフロント

(コード番号: 2321 G)

(URL <http://www.softfront.co.jp>)

代 表 者 代表取締役 村田 利文 TEL(011)623-1001
問 合 せ 先 責任者 取締役管理本部担当 山本 明彦

1. 四半期財務・業績の概況の作成等に係る事項

- 会計処理の方法の最近会計年度における認識の : 有・無
方法との相違の有無
連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有・無
公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 有・無

2. 平成17年3月期第1四半期の業績概況(平成16年4月1日～平成16年6月30日)

(1) 経営成績の進捗状況

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 (四 半 期) 純 利 益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
17年3月期第1四半期	57 68.0	106 -	107 -	108 -
16年3月期第1四半期	180 4.8	14 -	3 -	4 -
(参考)16年3月期	744 -	116 -	69 -	92 -

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第1四半期	6,768.22	-
16年3月期第1四半期	317.74	-
(参考)16年3月期	5,840.26	-

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

(2) 財政状態の変動状況

	総 資 産	株 主 資 本	株 主 資 本 比 率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	733	367	50.0	22,948.73
16年3月期第1四半期	758	387	51.1	24,218.39
(参考)16年3月期	854	475	55.7	29,716.95

【キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	102	10	4	334
16年3月期第1四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	64	20	28	238

3. 平成17年3月期の業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	予 想 売 上 高	予 想 経 常 利 益	予 想 当 期 純 利 益	1 株 当 た り 予 想 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中 間 期	160	210	210	13,121.72
通 期	760	23	21	1,312.17

1. 業績の概況(平成16年4月1日～平成16年6月30日)

(1) 業績全般

当第1四半期(平成16年4月1日～平成16年6月30日)における我が国の経済は、海外景気の拡大が続くなかで輸出が増勢を維持するとともに、需要の拡大を背景とした設備投資も増加傾向を示す等、アテネオリンピックを控えた耐久財消費もあいまって堅調に推移しております。一方、当社の主力製品である「SIP」を取り巻く環境については、通信キャリア、大手プロバイダーによるIP電話網が着実に広がると共に、大手通信機器メーカーによる企業向けIP電話導入事例が徐々に拡大する傾向がみられる等、「SIP」そのものの市場環境は間違いなく拡大していると思われれます。しかし、当社が最も期待している「SIP」技術の「電話を超える」応用分野については、セキュリティ、認証等を含むネットワーク環境の整備や、ネットワーク家電の市場投入時期等の関係から、本格的な普及期には至っておりませんが、今年に入ってからNTTコミュニケーションズ株式会社が安全、簡単、低コストでのリアルタイム通信を可能にする通信アーキテクチャ「m2m-x」を発表する等、取組みが本格化してきたことから、当期中には普及期に入ってくるものと期待しております。なお、当社では、既にNTTコミュニケーションズ株式会社の「m2m-x」に対応した「m2m-x開発セット(SIP UAスタック)」の開発に着手しており、第2四半期よりトライアルセットの販売を開始いたします。

このような市場環境の中、当社の当第1四半期(平成16年4月1日～平成16年6月30日)の業績は、売上高57,645千円、売上総利益16,404千円、営業利益106,301千円、経常利益107,843千円、第1四半期純利益108,318千円となりました。

売上高につきましては、前期同様、「SIPパートナープログラム」に経営資源を集中的に投下し、「SIP」関連ソフトウェアの販売拡大に注力してまいりましたが、1)「SIP」マーケットが当期に入り、当社の予想を上回るスピードで「初期市場」から「普及期市場」へ急速に進化し始めたことに伴う当社マーケティング戦略の見直しと対応に遅れが出たことから、営業リソースが分散したこと、2)パートナー企業数増加に対応した営業リソースの増強に時間を要していること、3)一部の受託案件について、案件の成約が第2四半期以降にずれ込んだこと等により、57,645千円(前年同期比68.0%減)と前年同期実績を122,726千円下回る大幅な減収となりました。なお、上記の要因については、既に対応策に着手しており、下期以降、その効果が確実に出てくるものと認識しております。また、販売区分別の売上高では、ソフトウェア販売が上記の要因から24,224千円(前年同期比81.5%減)と前年同期実績を106,398千円下回った他、受託開発についても前期末からの継続案件も含め概ね順調に推移したものの33,421千円(前年同期比26.9%減)と前年同期実績を12,313千円下回りました。

売上総利益につきましては、継続的な原価管理体制の強化により売上原価が41,241千円(前年同期比5.1%減)と前年同期実績を2,221千円下回ったものの、売上高が前年同期実績と比較して減少したことから、16,404千円(前年同期比88.0%減)と前年同期実績を120,505千円下回る結果となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、本社オフィススペースの削減、リース・レンタル物件の整理等により、地代家賃、賃借料等が前年同期実績を下回った他、前期に引き続き経費全般について削減に努めたものの、「SIP」関連製品の開発に関する研究開発費、新規採用に係る募集費等が増加したことから、122,705千円(前年同期比0.7%増)と前年同期実績を794千円上回る結果となりました。

営業損益につきましては、売上総利益で販売費及び一般管理費を吸収することができなかったことから、106,301千円の営業損失(前年同期は14,998千円の営業利益)を計上いたしました。

経常損益につきましては、営業外費用(1,625千円)が営業外収益(84千円)を上回ったことから、107,843千円の経常損失(前年同期は3,502千円の経常利益)を計上いたしました。なお、前期末において本社未利用部分の返却が完了し家賃負担が無くなったことから、営業外費用は前年同期実績を13,448千円下回りました。

第1四半期純損益につきましては、108,318千円の第1四半期純損失(前年同期は4,978千円の第1四半期純利益)を計上いたしました。

(2) 研究開発活動

当第1四半期における研究開発については、第2四半期に市場投入する「SIP」関連新製品開発、及び今後本格化する「普及期市場」攻略に向けた「SIP」関連製品の開発に注力したことから、39,535千円(前年同期比48.0%増)と前年同期実績を12,826千円上回りました。

2. 当期の見通し

(1) 業績見通し

業績見通しにつきましては、本日(平成16年8月6日)付けにて別途開示いたしました修正予想の通り、以下の見通しとなっております。

中間期業績予想の修正(平成16年4月1日～平成16年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	400	30	25	25
今回修正予想(B)	160	195	210	210
増減額(B - A)	240	225	235	235
増減率(%)	60.0	750.0	940.0	940.0
(参考)前期中間実績 平成15年9月中間期	365	46	22	16

通期業績予想の修正(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	870	135	120	120
今回修正予想(B)	760	49	23	21
増減額(B - A)	110	86	97	99
増減率(%)	12.6	63.7	80.8	82.5
(参考)前期実績 平成16年3月期	744	116	69	92

(2) 業績予想の修正理由

当第1四半期の売上高は、「SIP」マーケットの急速な進化に伴う当社マーケティング戦略の見直しと対応に遅れが出たことから、営業リソースが分散したこと、パートナー企業数増加に対応した営業リソースの増強に時間を要していること、一部受託案件の成約が第2四半期以降にずれ込んだこと等により、当初予想を大幅に下回る結果となっております。当社では、この結果を受けて、新たなマーケティング戦略の遂行による販売チャネルの整備拡充等、具体的な対応策に着手しておりますが、これらの成果が本格的な数字として表れるのは、下期以降になると想定されることから、これらの施策が予定通りの成果を上げた場合であっても、上期における落込み分をカバーするのは、非常に難しい状況にあると認識しております。

これらの状況に鑑み、中間期売上高、通期売上高につきましては、予想を下方修正(中間期増減率 60.0%、通期増減率 12.6%)いたします。また、各利益につきましても、経費全般に対する予算執行を厳格化することで削減に努めてまいります。売上高の減少分をカバーするには至らないものと想定されることから、中間期、通期とも予想を下方修正いたします。

3 生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第1四半期会計期間の生産実績を主要販売形態別に示すと次のとおりであります。

(単位：千円)

区 分	当第1四半期会計期間 〔自 平成16年4月1日〕 〔至 平成16年6月30日〕	前年同期比(%)
ソフトウェア販売	17,051	145.6
受 託 開 発	24,190	82.8
そ の 他	-	-
合 計	41,241	94.9

(注)1.金額には、消費税等は含まれておりません。

2.ソフトウェア販売の金額は、ソフトウェア提供のための製造原価を記載しております。

(2) 受注状況

当第1四半期会計期間の受注状況を主要販売形態別に示すと次のとおりであります。

(単位：千円)

区 分	受 注 高	前年同期比(%)	受 注 残 高	前年同期比(%)
ソフトウェア販売	34,198	27.5	10,599	305.5
受 託 開 発	27,319	15.6	20,084	13.4
そ の 他	-	-	-	-
合 計	61,517	20.2	30,683	20.1

(注)金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第1四半期会計期間の販売実績を主要販売形態別に示すと次のとおりであります。

(単位：千円)

区 分	当第1四半期会計期間 〔自 平成16年4月1日〕 〔至 平成16年6月30日〕	前年同期比(%)
ソフトウェア販売	24,224	18.6
受 託 開 発	33,421	73.1
そ の 他	-	-
合 計	57,645	32.0

(注)金額には、消費税等は含まれておりません。

4. 第1四半期財務諸表

(1) 第1四半期貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当 第 1 四 半 期 会 計 期 間 末 (平成16年 6月30日現在)		前 第 1 四 半 期 会 計 期 間 末 (平成15年 6月30日現在)		前 事 業 年 度 の 要 約 貸 借 対 照 表 (平成16年 3月31日現在)	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
(資産の部)		%		%		%
流動資産						
1. 現金及び預金	409,022		268,127		313,352	
2. 売掛金	64,758		197,847		267,925	
3. たな卸資産	-		2,956		-	
4. 繰延税金資産	44,347		-		44,347	
5. その他	30,714		19,340		33,480	
貸倒引当金	749		925		2,891	
流動資産合計	548,093	74.7	487,346	64.3	656,214	76.8
固定資産						
1. 有形固定資産	11,744		15,915		12,351	
2. 無形固定資産						
(1) ソフトウェア	143,491		157,323		149,091	
(2) その他	1,246		1,246		1,246	
無形固定資産合計	144,737		158,569		150,337	
3. 投資その他の資産						
(1) 差入保証金	29,334		88,330		29,334	
(2) 長期未収入金	-		13,253		-	
(3) その他	18,194		8,627		18,342	
貸倒引当金	18,144		13,689		12,443	
投資その他の資産合計	29,384		96,522		35,233	
固定資産合計	185,867	25.3	271,007	35.7	197,922	23.2
資産合計	733,960	100.0	758,353	100.0	854,136	100.0

(単位：千円)

科 目	当 第 1 四 半 期 会 計 期 間 末 (平成16年 6 月30日現在)		前 第 1 四 半 期 会 計 期 間 末 (平成15年 6 月30日現在)		前 事 業 年 度 の 要 約 貸 借 対 照 表 (平成16年 3 月31日現在)	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
(負債の部)		%		%		%
流動負債						
1. 営業未払金	10,633		27,803		12,757	
2. 短期借入金	100,000		151,000		180,000	
3. 一年以内返済予定の長期借入金	87,265		70,450		57,525	
4. 未払金	153		26,385		986	
5. その他	11,985		16,699		25,056	
流動負債合計	210,037	28.6	292,338	38.6	276,324	32.3
固定負債						
1. 長期借入金	153,695		70,960		99,265	
2. その他	2,956		7,464		2,956	
固定負債合計	156,651	21.3	78,424	10.3	102,221	12.0
負債合計	366,689	49.9	370,762	48.9	378,546	44.3
(資本の部)						
資本金	1,996,960	272.1	1,996,960	263.3	1,996,960	233.8
資本剰余金	1,779,120	242.4	1,779,120	234.6	1,779,120	208.3
利益剰余金	3,408,808	464.4	3,388,488	446.8	3,300,489	386.4
資本合計	367,271	50.1	387,591	51.1	475,590	55.7
負債資本合計	733,960	100.0	758,353	100.0	854,136	100.0

(2) 第1四半期損益計算書

(単位：千円)

科 目	当第1四半期会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年6月30日)		前第1四半期会計期間 (自 平成15年4月1日 至 平成15年6月30日)		前事業年度の 要約損益計算書 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)	
	金 額	百分比	金 額	百分比	金 額	百分比
売上高	57,645	100.0	180,372	100.0	744,427	100.0
売上原価	41,241	71.5	43,462	24.1	242,869	32.6
売上総利益	16,404	28.5	136,909	75.9	501,558	67.4
販売費及び一般管理費	122,705	212.9	121,910	67.6	384,890	51.7
営業利益又は営業損失()	106,301	184.4	14,998	8.3	116,668	15.7
営業外収益	84	0.1	3,577	2.0	8,235	1.1
営業外費用	1,625	2.8	15,074	8.4	55,311	7.4
経常利益又は経常損失()	107,843	187.1	3,502	1.9	69,591	9.4
特別利益	-	-	1,950	1.1	2,575	0.3
特別損失	-	-	-	-	21,637	2.9
税引前第1四半期(当期)純利益又は純損失()	107,843	187.1	5,453	3.0	50,529	6.8
法人税、住民税及び事業税	475	0.8	475	0.3	1,900	0.3
法人税等調整額	-	-	-	-	44,347	6.0
第1四半期(当期)純利益又は純損失()	108,318	187.9	4,978	2.7	92,976	12.5